

令和4年12月27日 提出

閉会中（休会中）における質問書

(議会基本条例第19条第1項関係)

質問者氏名	大村洋子
回答を求める者	市長

【件名及び質問の要旨】**I 米海軍横須賀基地における排水処理施設からのPFAS流出事案を受け、同施設への「立入り」が実施されたことについて**

2022年5月4日米海軍基地の排水処理施設で排水処理業者が「特異な泡」を発見。その後、「泡」には人体に悪影響を及ぼすと言われているPFOS、PFOAを含む有機フッ素化合物（以下、総称して「PFAS」という。）が含まれていることが判明した。米海軍は排水処理施設の入り口、出口で何度もサンプリングをしてきたが、回数を増すごとに検知されるPFASの数値も上がり続けた。原因究明を望む声が強まる中、本市も「立入り」を申請し、12月15日、米軍、国とともに「立入り」を行った。「立入り」は米海軍横須賀基地では初めてのことであり、新聞報道にも大きく掲載され、市民の関心も高いと思われる。また、9月定例議会においては原因究明について早急に進めるようにと市議会でも全会一致で決議されている。現在、横須賀市議会は休会中であることから、「文書質問」を行い、市長の御所見を以下のとおり伺う。

- (1) 本市は当初、「立入り」は国が行い、その報告を受けるという立場であったと認識している。市長は8月29日の私の一般質問の際の答弁で「今後立入調査等が必要と判断した場合はアメリカ側及び国と調整してまいりたいと考えています。」と言いつつ、一問一答では「ただ立入調査に関しては私たちは遠慮させてもらうのは当たり前だと思っています。」とおっしゃっている。しかし、結果、本市も直接米海軍基地の中に入ることを決断したのはどのような経緯からか。市長の思いの変遷を伺う。

- (2) 本市にとって「立入り」の目的は何だったのか。具体的に米軍や国に要望した事項を全て伺う。
- (3) 「立入り」に参加した市の職員は6人と聞いているが、部署等その内訳を伺う。
- (4) 米側は自分たちが調査を行っていることを理由に市の独自のサンプリングを拒否したということだが、そのことに対する市長の御所見はいかがか。
- (5) 今まで米海軍基地内の排水処理施設の入り口、出口あるいは生活排水ライン、産業排水ラインということでサンプリングをしてきたが、排水処理施設に至る以前のところで水が混流していた、あるいは排水処理施設内で水が混流している旨の説明があったようだが事実はいかがか。もしそれが事実であれば、今までのサンプリングの意味をどのように解釈したらよいのだろうか。併せて市長の御所見を伺う。
- (6) これまでの緊急質問や一般質問の中で市長は「立入調査」という言葉を用いてきたが、今回行われた「立入り」後の報告、概要を読む限り、「調査」という言葉は使用されていない。今回の「立入り」は「調査」ではなく「確認」であると私は認識している。担当者からの聞き取りにおいても「横須賀市は調査できない」ということであった。「立入り」後においても一部報道で「立入調査」という文言があったが、今回の「立入り」をどう捉えればよいのか。市長の御認識を伺う。
- (7) 基地から50ヤード以内の「常時立入禁止区域」で日米共同サンプリングを行った。ボートの準備等があったことから、当日以前に決まっていたことと思う。提案は誰か。この行動に至る経緯を伺う。
- (8) 粒状活性炭のフィルターが11月1日に設置された。その前の10月28日、その後の11月2日、この両日についてサンプリングは方法の不備ということで検知されなかった。フィルター設置の前後におけるサンプリングは最も重要であり、慎重な検査が望まれた。多くの関係者が注目していたことだろう。したがって、私はこのタイミングでのサンプリングミスは米海軍へのさらなる信頼失墜に値すると考えるが、市長の御所見はいかがか。
- (9) 11月18日のサンプリング結果は暫定目標値以下であると説

明を受けているということだが、数値そのものを引き続き求めるべきと思うがいかがか。

- (10) 市は引き続き原因究明を求めていると思うが、これまで、市の求めに対して、米海軍及び国から原因究明の現状や課題等について何の報告もない。結果を全て明らかにするのに時間を要することは理解できるが、少なくとも途中経過を報告してほしい。この膠着状態ともいえる現状を打開するためには今までどおりのアプローチの繰り返しでは事態が進まないと考える。市としてできることがないのか、いま一度当該自治体としての対応を明示していただきたい。市長に答弁を求める。
- (11) 汚泥のサンプリングやリフトステーションのサンプリングは実際にはもう終わっているのではないか。公表できないのはなぜか。公表にはどのようなプロセスが必要なのか。米国防総省（ペンタゴン）や日米合同委員会合意が必要ということか。市として公表のプロセスをどのように認識されているのか。
- (12) 市長と基地司令官が懇談した際にリフトステーションから排水処理施設の間にあるタンクについて、司令官はサンプリングを行う旨の発言を行っていたが、今回の「立入り」によってそのタンク自体も見ることができなかった。タンクの存在をお知らせしながら、「確認」すら拒否するとはどういうことだろうか。このことに対する市長の御所見を伺う。
- (13) 「排水」について日米の共通した基準がしっかりしていないことが課題である旨の話を「立入り」後、担当者から伺った。今回の「立入り」において、米海軍が一切、具体的な数値を明示しなかった背景にはこの部分の共通認識の欠如が一要因になっているのではないかと私は推察している。「排水」のサンプリングを議論する際にその概念や基準を共通にしておくことは科学的に議論する上で大前提であると思う。この共通土台の上に立たなければお互いの信頼関係も構築できない。今回の「立入り」ではこの教訓が引き出されたと思うが、問題が大きいだけに、本市だけではなく、日米政府としての取組も必要と思われる。「排水」の概念や基準の合意形成について市として何ができるのか、何をすべきなのか。今後の取組について市長の御所見を伺う。
- (14) 今後のP F A Sの基準について日米の基準値の一致を見ることが必要ではないか。国の見解等把握していることを伺う。

- (15) 今回の米海軍基地への「立入り」全体について市長の御所見を伺う。とりわけ「立入り」は横須賀市民に安心を与えることにつながったとお考えか、併せて御所見を伺う。